

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	21_岐阜県
市区町村名	21204多治見市

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
21204多治見市	②学校と地域の課題	02 青少年の健全育成	H12をピークに人口減少・少子化となっているので、持続可能な社会の構築が課題である。 地域と関わり、地域の活動に参加する児童生徒が、全国平均より少ない現状があったが、全国学調では「地域をよくするために何かしてみたい」と考える児童生徒は全国平均に近づいてきた。 また、R6の実施後のアンケートに「多治見がもっとよくなる」といふと98%が回答。受講者の地域に対する意識は高まってきている。 さらに、多治見に愛着をもち、多治見がよくなることを願い、多治見の抱える課題を解決できるよう、行動できる人材が増えることが課題である。	1. 学校の働き方改革の推進 多治見市内の全小中学校の代表として、地域学校協働活動推進員が地域と調整する。 2. 課題解決を意識した郷土学習の推進 ①ふるさと多治見について地域資源を理解し、その魅力を、体験を通して地域住民から学ぶ。 ②ふるさと多治見の魅力を継続・発展させるため、現状を知り、課題を明確にする。 ③縦割りの少人数グループを構成し、中学生ボランティアをリーダーに、退職教員から成る土曜学習サポーターを補助者として温かいつながりを築く。 ④自分も地域の一員であることを実感し、多治見の魅力や課題を「自分事」として感じるようにする。 ⑤将来多治見がどうなっていてほしいか、夢（理想像）を考える。 ⑥⑤のために今と将来にわたっての両面から自分ができることは何かを考える。	・受講後のアンケート結果より 多治見はよい所だと思う 98% 多治見がもっとよくなるとよいと思う 98% 自分も多治見のために何かしたい 90% （具体例 ボランティア・よさを広める・将来この仕事に就きたい） 多治見の文化や歴史を、熱い想いをもった専門家から体験を通して学び、学校区・学年・兄弟姉妹の枠にとらわれず活動グループを組み、心のつながりをもつことにより自分も多治見の一員であることを実感し、多治見への愛着が湧いた。また、90%の参加者が、自分事ととらえ多治見のために何かしたいと願いをもつようになった。また、R6の全国学調「地域をよくするために何かしてみたい」と考える児童は全国平均になり、中学校では全国平均を5%上回った。 しかし、将来の夢や目標をもっている児童が77%で、県や全国平均の80%越えに対して低い。 そこで、将来の夢や目標を多治見に関してイメージできるように問いかけたい。	・地域・学校・家庭が連携・協働して、自立的・継続的に、多治見に愛着をもち、多治見がよくなることを願い、それを自分の夢や目標の一つとして掲げ、行動できる人材を増やす。	・「自分も多治見のために何かしたい」をさらに将来の夢につなげ、実現する意欲を高めるために、多治見の現状や課題を知り、将来多治見がどうなっていてほしいか夢（理想像）を描く。その実現のために、自分には何ができるのかを ①今できること ②大人になったらできること について考え、受講後のアンケートに、記述ができた割合（%）を指標とする。	0	%	10	①66 ②84	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた R7では、将来の夢や目標を講座内容に関連しながらイメージできるように問いかけた。 その結果 ①将来の夢のために、今自分にできることを考えた…66% ②自分が大人になった時の夢や目標をイメージできた。…84% となった。 さらに、自立的・継続的に高まるために、精神的自立と社会的自立を目指す。 A.精神的自立の手段として、講座の最初の活動班交流の時に目標を決め、達成するために何をどう頑張るかを考える。 B.社会的自立を目指す手段として、人間関係の質の向上を目指し、共感力の高めるため、自分の考えや思いを伝える場を設定する。 また、班活動が活発になるような題材、講座の内容を工夫する。